

無線通信研究の先駆者

鳥潟 右一

とりかた ういち

出身地 大館市

1883年（明治16年）～1923年（大正12年）

亡くなるまでの十数年の短い研究生活の間に、無線通信に関わる多くの発明を成し遂げる。特にTYK式無線電話の発明により、世界で初めて無線電話の実用化に成功した。



年譜

- 1883年 おおだて 大館市に生まれる。幼名・宇一。
- 1906年 ていこく 東京帝国大学工科大学電気工学科を首席で卒業。
ていしんしょう 逓信省電気試験所に入所。
- 1908年 タンタラム検波器を発明。
- 1909年 海外留学を命ぜられる。（～11年）
- 1912年 TYK式無線電話を発明。
- 1914年 みえ とぼ 三重県鳥羽で無線電話の世界初の実用化開始。
- 1915年 ていこく 東京帝国大学より工学博士の学位授与。
- 1920年 ていしんしょう 電気試験所の第3代所長に就任。
- 1923年 ぼつ さい 東京都で没。40歳。